



「高鍋町キャリア教育支援センターOPEN！」

高鍋町は、管内の小・中・高校と企業の連携を密に推進するため、「高鍋町キャリア教育支援センター」を開設しました。本センターには、コーディネーターが1人配置されます。センターの設置は、日向、延岡、小林に次いで県内4か所となります。

「管内企業そして地元高鍋町の歴史や魅力を子供たちや保護者にも伝えながら、身近なところから、働くことそして学ぶことの意義や、より豊かな人生を生きるための手立てについて考え、実行する子供たちの育成を目指します。」（高鍋町キャリア教育支援センター設立趣意書より抜粋）

10月11日、高鍋町商工会議所で行われた開所式には、黒木敏之町長、増田秀文会頭、川上浩教育長、森淳一コーディネーターをはじめとする関係者が出席されました。



【写真提供：高鍋町役場】

新学習指導要領におけるキャリア教育について（2）

前号でキャリア教育の定義と新学習指導要領総則を確認しましたが、今回はそこに至るまでに中教審答申で出されたキャリア教育の課題と多く聞かれるQ&Aを紹介します。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（中央教育審議会 平成28年12月21日答申）より

- 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（平成23年1月中教審答申）」を踏まえ、キャリア教育の理念が浸透してきている一方、次のような課題が指摘されている。
 - ・ **職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか**
 - ・ **社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか**
 - ・ 職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点に乏しく、既存組織のこれまでの在り方を前提に指導が行われているのではないか
 - ・ **将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されたりするのではないか**
- **教育課程全体を通して**必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要
- 大学進学希望者が多い普通科の高等学校においても、それぞれの高等学校や生徒の特性を踏まえ、就業体験を充実する必要がある。
- キャリア教育は、小学校から高等学校まで教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むものであり、**小学校段階から**特別活動の中にキャリア教育の視点を入れていくことが重要である。

この課題を受けて、平成29年度版学習指導要領では、裏面のように示されています。

(平成29年告示の学習指導要領 総則：小中高共通)

(児童)生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、**特別活動を要として**各教科(・科目)等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

	旧	新
『特別活動』 小・中学校 【学級活動】 高校 【ホーム ルーム活動】	小学校 (1) 学級や学校の生活づくり (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 中学・高校 (1) 学級(ホームルーム)や学校の生活づくり (2) 適応と成長及び健康安全 (3) 学業と進路	小・中・高共通 (1) 学級・ホームルームや学校における集団生活の創造、参画 (2) 一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

(平成29年告示の学習指導要領 特別活動：小中高共通)

2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材※1等を活用すること。

※1 「生徒が活動を記録し蓄積する教材」：キャリア・パスポート(仮称)

Q & A

【平成30年度キャリア教育指導者養成研修より】

Q1：特別活動が要となっているので、特別活動の学級活動・ホームルーム活動や学校行事だけでキャリア教育は実践すればいいのでしょうか。

A1：違います。キャリア教育は、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かしつつ、**学校の教育活動全体を通じて実施します。**

Q2：特別活動を要とするとはどういう意味ですか。

A2：キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を「特別活動の学級活動(ホームルーム活動)」で行うことです。

Q3：キャリア・パスポートって何ですか。

A3：A2の活動を行う際に「児童生徒が見通しを立てたり振り返ったりするための教材」のことで、ポートフォリオ的な教材です。小中高12年間の記録を持ち上げる教材で平成31年3月に国が例示資料を出す予定になっています。

Q4：総合的な学習の時間を中心にキャリア教育を実践してきましたが、それではいけないのですか。

A4：大丈夫です。総合的な学習(探究)の時間の目標はキャリア教育の定義と密接な関係があります。今まで同様、総合的な学習の時間の充実はキャリア教育に不可欠です。ただ、学級活動(ホームルーム活動)での実践も行ってください。

Q5：どうして小学校からキャリア教育が必要なのですか。

A5：日本の学生は教育の出口で進路について慌てる現状があり、職業を意識した時期が早いほど、積極的な進路決定を行う調査結果が出ているためです。

これ以外にも何か不明な点がありましたら、キャリア教育支援センター(0985-24-3156)へ連絡ください。次回は、今後の基本的な方向性及び学校の具体的な実践方法を紹介します。